

家庭科における教育課題と学習を通して生徒につけたい力 およびそのための学習内容の構想と実践

—中学校における住生活領域と生活経営領域の融合—

浦上 紀子*・神川 康子

(2002年8月28日受理)

On Developing Students' Ability Through Practicing of Task Solving Learning in Home economics and on the Conception for Planning Learning Contents for It

—Uniting of Two Domains of Dwelling Life and
Home Management at Junior High School—

Noriko URAKAMI and Yasuko KAMIKAWA

キーワード：中学校家庭科，カリキュラム，授業実践，住生活，家庭経営

Key words : home economics of junior high school, curriculum, practice of teaching, dwelling life, home management

1. はじめに

小・中学校では新学習指導要領が平成10年12月に告示され，平成14年4月1日から施行されている。高等学校では平成11年3月告示，平成15年4月1日施行のはこびである。家庭科においてもこの新学習指導要領を受けて，「子どもの主体的な学び」を目標とした新しい視点に立ったカリキュラムの研究が多くなされている¹⁾²⁾。本研究も日本家庭科教育学会北陸地区カリキュラム研究会で進めてきた研究³⁾⁴⁾の一環として，小，中，高の一貫した家庭科カリキュラムを研究する中で試みた中学校における授業実践とその評価について検討するものである。本研究では，まず小，中，高の家庭科の新学習指導要領を分析し，それに基づいて，カリキュラム構想をたて，生徒の生活実態を把握しながら，まず住生活領域と家庭経営領域を融合させる形で児童・生徒の主体的学びの道筋を効果的に展開していく方法および授業実践について検討した。最終的な目標は小，中，高における家庭科の授業を通して，児童・生徒に身につけさせたい学習課題を設定し，それらの学習課題を達成していくための効果的なカリキュラム構成および授業内容・方法を提案することである。本報告では中学校におけるカリキュラム構想，授業実践，授業評価等の詳細を述べる。

2. 研究方法

まず小，中，高の家庭科の新学習指導要領を参考に，家庭科における住生活と生活経営領域の学習課題を整理し，学習を通して児童・生徒につけさせたい力と，領域ごとの学習内容を，小学校，中学校，高等学校の各学校段階について一覧表に表す作業を行った（表1）。この表をもとに，「住生活領域」と「生活経営領域」を関連させた具体的な授業案を作成し，平成13年9月から平成14年2月にかけて授業実践を行った。

(1) 学習課題

家庭科の学習課題としては，表1の横軸に示すように，「1. 生活を自立的に営む」「2. 生活に主体的に関わる」「3. 平等な関係を築きともに生きる」「4. 生活を楽しみ，味わい，創る」の4つの柱を立て，各柱（課題）ごとに児童・生徒に学習でつけたい力（教育視点）として，「健康で文化的な生活を営む力」「よりよい生活をつくり改善する力」「ともに生きる力」「生活文化への理解・実践力」を挙げた。

(2) 学習領域

学習領域は大きくⅠ「個人及び家族の発達と福祉」とⅡ「生活資源と暮らしの営み」の2領域に分け，それぞれの領域の中を，Ⅰ—①「個人・家族の生活」，Ⅰ—②「高齢者の生活と福祉・地域」，Ⅰ—③命と生活，Ⅱ—①

* 氷見市立明和小学校（元富山大学教育学部附属中学校）

「食生活」、Ⅱ-②「住生活」、Ⅱ-③「衣生活」、Ⅱ-④「生活の経営」というように分類した。

(3) 生徒につけたい力

いずれの学習課題と学習領域の組み合わせにおいても全体の授業の流れの中で表2に示すように、生徒の学習の深まりが、「基本的な知識・技術の習得」から「ひと・もの・ことを取り巻く問題や課題を認識する」そして「問題に主体的に取り組む実践力」が身に付くように展開すること（横軸）と、身近な「日常生活」から「地域社会」（縦軸）へと視点が拡大したり、反対にグローバ

ルな課題から児童・生徒の身近な課題へと引きよせられるように配慮した。

(4) 授業評価

授業が子ども達に及ぼした影響と、教師が授業の目標にどこまで近づけたかについて把握するために、教師と生徒の両者が授業毎と、単元の終わりに評価できる方法を検討し、表3に示す授業評価を行った。

本報告では、中学校で実践した10時間の授業を通して得られた結果について述べる。

表1 家庭科の学習課題・領域と学習内容（家庭科教育学会北陸地区会カリキュラム研究会でさらに検討中）

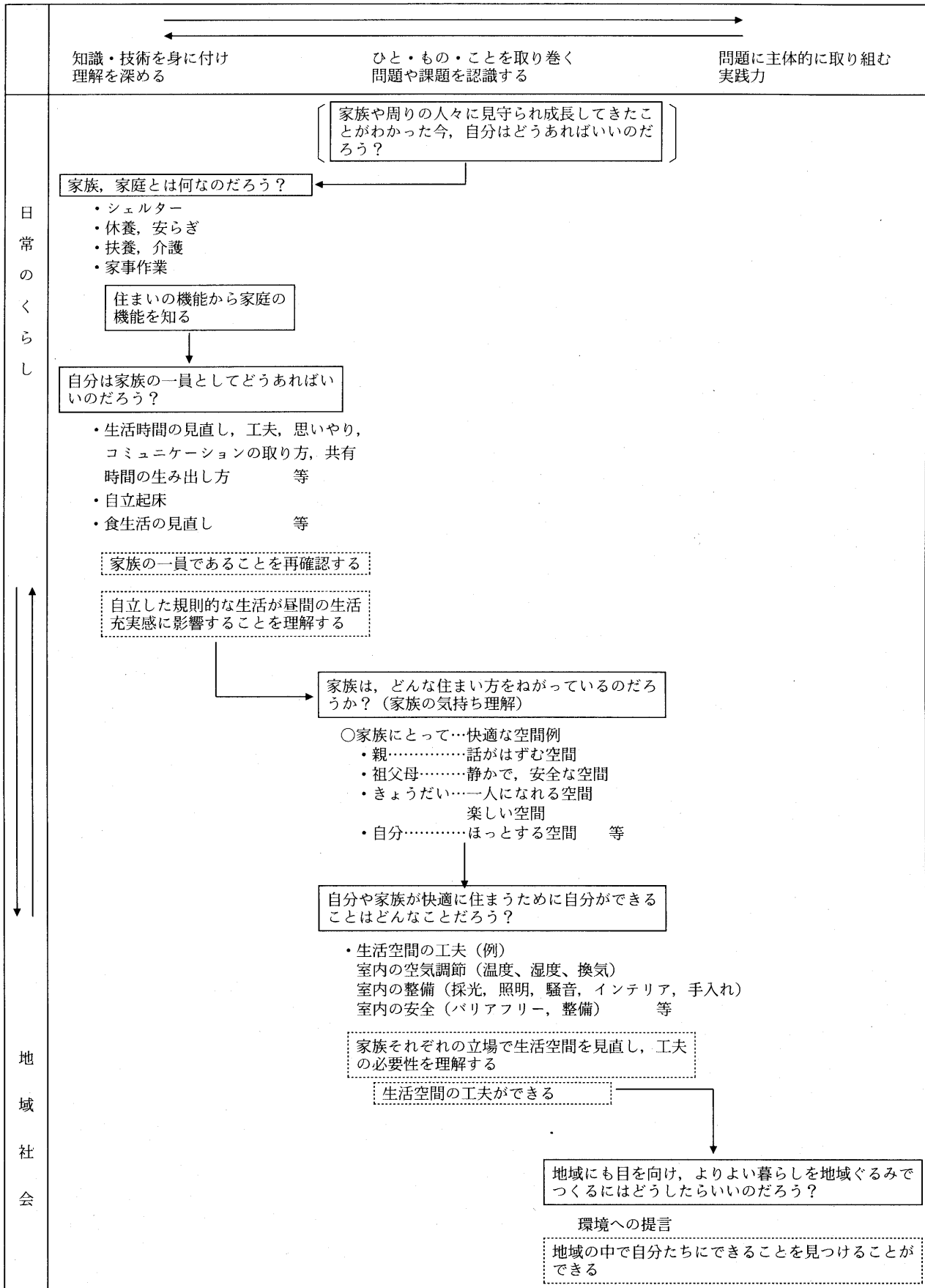
住生活領域と生活経営領域の学習内容の例（小、中、高校段階別）

学習課題 つけたい力 (教育視点)		生活を自立的に営む	生活に主体的に関わる	平等な関係を築きともに生きる	生活を楽しみ、味わい、創る
		健康で文化的な生活を営む力	よりよい生活を創り、改善する力 (環境) (消費) (省資源) (その他)	ともに生きる力 (ジェンダー) (福祉) (人権) (その他)	生活文化への理解・実践力
個人及び家族の発達と福祉	個人・家族の生活				
	高齢者の生活・福祉・地域				
	命と生活				
生活資源と暮らしの営み	食生活				
	住生活	住居の機能 ・安全 ・健康 ・衛生(清掃) ・能率(整理・整頓) ・快適性	住環境の整備 自然と調和した住まい (採光, 照明, 明るさ, 暖かさ, 通風) 住空間の計画 インテリア計画 (家族に配慮した室内環境の工夫) 住居の維持管理 住宅事情・住宅問題 まちづくり	住まいと団らん 家事と住まい 社会的支援 バリアフリー 地域社会との関わり	色々な住まい 気候・風土と 住まい 住まいの歴史 ライフスタイル と住まい (住まい方) 園芸, ガーデニング すまいに役立つ制作
	衣生活				
	生活の経営	自分や家族の生活時間の見直し	生活時間の有効な使い方 テレビ・ゲーム 習い事・塾 家族との団らん 勉強 睡眠、食事	家族に協力	

斜体太字 : 小学校から
アンダーライン : 中学校から
標準文字 : 高校で

空白欄の内容は省略

表2 中学校における授業実践「家族と家庭生活」から「快適な住まい方」への授業展開例



□ は課題、⋯ はつけない力、〔 〕 は前時（「家族と家庭生活」学習）からの流れより

表3 授業評価のための観察・記録・アンケート

※：生徒 ☆☆☆ (生徒用) 家庭科授業観察・記録・アンケート

学校名：

授業者名：

授業年月日	年 月 日 ()
年・組・氏名	年 組、氏名 ()
今日のテーマはどんなことでしたか	
授業はわかりやすかったですか	1. わかりやすかった 2. まあまあわかりやすかった 3. 少しむずかしかった 4. とてもむずかしかった
授業中に使った教材で良かったと思うもの	1. ある (具体的に：) 2. とくになし
あなたは発言をしましたか (発言のチャンスがあった授業時で)	1. クラスで発言した 2. グループ内で発言した 3. 考えは持っていたが、発言はしなかった 4. 発言しなかった
あなたは授業で積極的に行動したと思いますか (活動のある授業の時のみ)	1. 積極的に行動した 2. まあまあ行動できた 3. あまり行動できなかった 4. ほとんど行動しなかった
自分にとってどんなことが最も印象に残りましたか	今日の授業で () が一番印象に残った
自分の生活で今後やってみようと思ったことがあれば書いてください	
その他、感想などなんでも書いてください	

※：教師 ◆◆◆ (教師用) 家庭科授業観察・記録・アンケート

学校名：

授業者名：

授業年月日	年 月 日 ()					
年・組・男女人数	年 組、男子 人、女子 人					
テーマ						
ねらい・目標						
教師自己評価	評価	良い	まあまあ	ちょっと	悪い	具体的に
	テーマ設定					
	授業準備					
	教材					
	授業内容					
	生徒の興味・関心					
	生徒の理解度					
	生徒の変容					
	総合的に					自由記述

※：生徒 □□□ 単元・学期・学年終了時用

(生徒用) 家庭科授業観察・記録・アンケート 学校名：

授業者名：

年 月 日	年 月 日 ()
年・組・氏名	年 組、氏名 ()
これまでに学んだテーマで思い出せるものは	
全体的に、授業はわかりやすかったですか	1. わかりやすかった 2. まあまあわかりやすかった 3. 少しむずかしかった 4. とてもむずかしかった
授業中に使った教材で最も良かったと思うもの	1. ある (具体的に：) 2. とくになし
あなたは発言をしましたか	1. クラスで発言した 2. グループ内で発言した 3. 考えは持っていたが、発言はしなかった 4. 発言しなかった
あなたは授業で積極的に行動したと思いますか	1. 積極的に行動できた 2. まあまあ行動できた 3. あまり行動できなかった 4. ほとんど行動しなかった
家庭科で学んだことで、あなたはどんなことが印象に残っていますか、いくつでも書いてください	これまでの授業で 1. () 2. () 3. () 4. () 5. () 6. () などが印象に残った
自分の生活で今後も続けてやっていたいと思ったことがあれば書いてください	

※：教師 ■■■ 単元・学期・学年終了時用

(教師用) 家庭科授業観察・記録・アンケート 学校名：

授業者名：

年 月 日	年 月 日 ()					
年・組・男女人数	年 組、男子 人、女子 人					
取り上げたテーマ						
生徒につけたかった力						
教師自己評価	評価	良い	まあまあ	ちょっと	悪い	具体的に
	各テーマの設定					
	授業準備					
	教材					
	全体的な授業内容					
	生徒の興味・関心					
	生徒の理解度					
	生徒の変容					
	問題点も含めて総合的に					自由記述

3. 授業実践の結果および考察

(1) 学習過程の概要

① 1/10時「家族・家庭の機能」からその生活を支える「住居の機能」へ

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家族、家庭の機能を知る。 ・生活時間を見直し、改善策を考える。 	
学 習 活 動	教 材 ・ 教 具 等	備 考
<ul style="list-style-type: none"> ○ 家族、家庭の機能を、自分なりに考えることを通して、知る。 ○ 家族の一員として、自分の生活時間を見直し、改善策を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・生活時間の見直し ・自立起床 ・食習慣 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の住居写真 ・生体に対する光の影響資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・住居形態に違いはあっても、共通点があることに気づくようにした。

② 2/10時「快適な生活空間の工夫—室内の空気調節—」

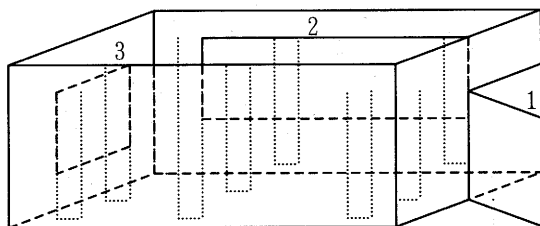
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家族にとっての快適な生活空間を知る。 ・家族全員が快適に感じる温度や湿度を知る。 	
学 習 活 動	教 材 ・ 教 具 等	備 考
<ul style="list-style-type: none"> ○ 家族は、どんな住まい方を願っているのかを考える。 ○ 家族全員が快適に感じる温度や湿度を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢の違いによる快適温度グラフ (NHK「生活ほっとモーニング」より抜粋) 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフから読み取れることを出し合った。 ・快適湿度を考えるために必要な基礎知識を問うクイズを行い、理解度が高まるようにした。

③ 3/10時「快適な生活空間の工夫—室内の空気調節、室内の整備—」

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・換気の必要性と効果的な方法を知る。 ・照明の効果を知る。 	
学 習 活 動	教 材 ・ 教 具 等	備 考
<ul style="list-style-type: none"> ○ 教室の空気の汚れ具合を測り、効率のよい換気の仕方を知る。 ○ 教室の照度を測り、目的に応じた適切な照度を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・勉強する場合 ・くつろぐ場合 ○ 照明器具の違いによる効果を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガス検知器 ・部屋の模型、ドライヤー ・照度計 ・蛍光灯と白熱灯の効果の違い写真 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりにどの窓を開けると効果的かを予想してから、実験に臨ませた。※1 ・教室内の各生徒の机上で照度を測定した。

※1 換気実験

天井と壁が全て透明の部屋模型

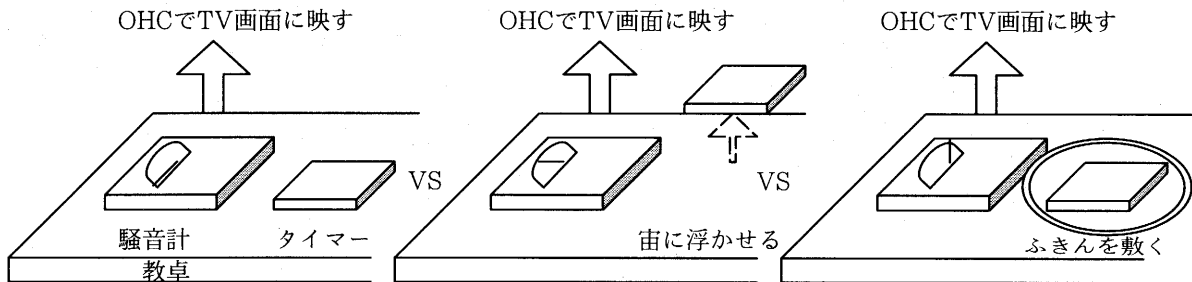


- ドライヤーの微風
- ← ← ←
- 1のみ開放 VS
 - 1と2を開放 VS
 - 1と3を開放

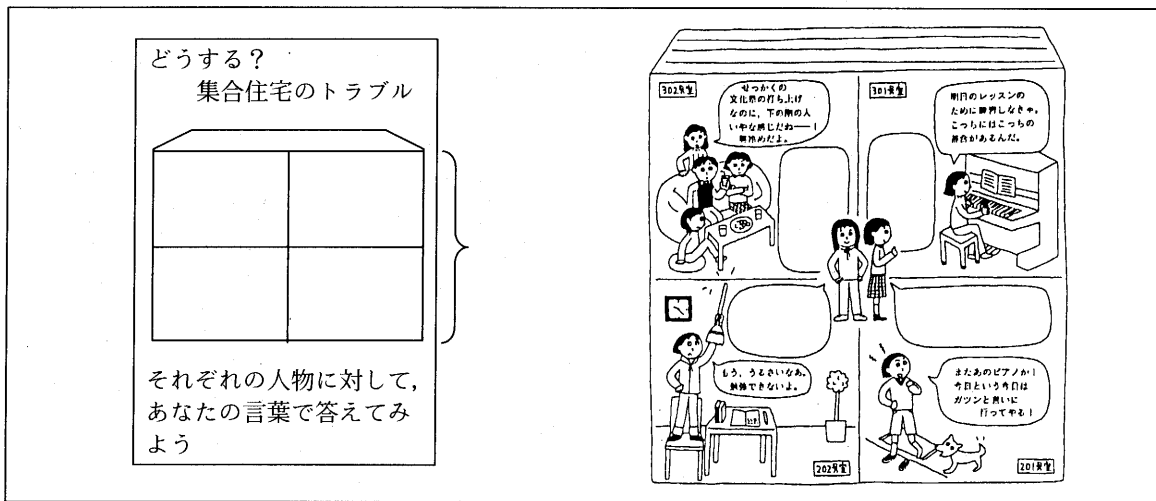
④ 4 / 10時「快適な生活空間の工夫—室内の整備—」

本時の目標		
・騒音について知り、対策を考えることができる。		
学 習 活 動	教 材 ・ 教 具 等	備 考
<ul style="list-style-type: none"> ○ 騒音の実態を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分が騒音だと思う音 ・集合住宅の場合の例 ・教室環境 等 ○ 騒音の種類を知り、対策を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・実験で <ul style="list-style-type: none"> …空気音, 固体音の場合 ・ワークシートで <ul style="list-style-type: none"> …「どうする? 集合住宅のトラブル」※3 	<ul style="list-style-type: none"> ・騒音計, OHC ・実験 (騒音計, タイマー, タオル, OHC) ※2 ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・「騒音ワーストV」を考えさせ、集合住宅におけるアンケート結果を紹介した。 ・そのままTV画面に騒音計を映し、教室内の学習時の実態に気づかせた。 ・過去の事例や一人暮らしを始めた学生の失敗談を話した。

※2 騒音実験 (視覚と聴覚で確認)



※3 「家庭科ワークブック」 牧野カツ子編著より



⑤ 5 / 10時「快適な生活空間の工夫—室内の整備—」

本時の目標		
・インテリアの工夫ができる。		
学 習 活 動	教 材 ・ 教 具 等	備 考
<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの学習を生かして、自分の部屋を見直し、改善策を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・明るさ, 換気, 騒音等の対策 ・心和む色合い ・勉強できる環境 等 ○ 色の違いによる雰囲気の違いを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・雰囲気の違い ・目的に応じた色の使い方 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート, 色鉛筆 ・「色の辞典」, OHC 	<ul style="list-style-type: none"> ・1つの例として「色」を取り上げ、同じ部屋でも色の違いによる雰囲気の違いに気付くように、クイズ形式を用いた。

家庭科における教育課題と学習を通して生徒につけたい力

⑥ 6/10時「快適な生活空間の工夫—室内の整備—」

本時の目標	・室内の手入れの必要性を知り、効果的な掃除の仕方を理解する。	
学 習 活 動	教 材 ・ 教 具 等	備 考
○ 快適に住まうために、掃除の必要性を知る。 ・ごみの実態 ・ダニの快適環境 等 ○ 効果的な掃除の仕方を理解する。	・VTR「ゴミの世界」	導入段階で、ダニの大きさをクイズにして「見えていない＝きれいである」と思い込みがちであることを確認した。

⑦ 7, 8/10時「快適な生活空間の工夫—室内の安全—」

本時の目標	・家庭内事故の実態を知る。 ・室内の安全のための工夫を考えることができる。	
学 習 活 動	教 材 ・ 教 具 等	備 考
○ 家庭内事故の実態を知る。 ・多い家庭内事故 ・インスタントシニア体験 ○ 危険箇所の改善方法を考える。 ・工夫してある友達の家の例より ・自分の考えより ・教師の紹介より	・家庭内の不慮の事故死のグラフ ・インスタントシニア体験グッズ ・危険防止グッズ くさび、蛍光テープ、 センサーライト、タッチライト、 滑り止めマット 等	・導入段階で、家庭内は自分以外の家族にとっても安全なのかを考えてから、グラフで確かめるようにした。 ・家庭内の危険を体験し、それをどう改善したらいいのかを探る目的でシニア体験を位置づけた。 ・家の改修工事をしなくても、物心両面の工夫次第で、簡単に改善できることに気付くようにした。

⑧ 9/10時「地域の環境—環境への提言—」

本時の目標	・地域環境の是非を問い、自分にできることを探る。	
学 習 活 動	教 材 ・ 教 具 等	備 考
○ 誰もが快適に住まうために、地域の環境は適切であるかを考える。 ・不便なところ ・よいと思われるところ ○ お年寄りや身体に障害を持つ人にとって住みやすいのかを考える。 工夫箇所の是非 ○ 誰もが快適に住まうためのアイデアを考え、発表する。 ・各自が案を持ち寄り、班で考え、発表 ・発表を聞いて意見交換	・VTR「ここがヘンだよ日本人」 ・生徒のアイデア	・元気で健康な生徒たちに、自分の考えの甘さ、浅さを気付かせるきっかけづくりにした。 ・生の声を聞くことによって、よりよい環境を目指して、自分にできることを考えるようにした。

⑨ 10/10時「よりよい環境を目指して」

本時の目標	・富山市の現状と今後の取り組みを知り、自分にできることを考える。	
学 習 活 動	教 材 ・ 教 具 等	備 考
○ 富山市の職員の方からお話を聞く。 ・現状と今後の取り組み ・自分たちが考えたアイデアについてのコメント ○ 質疑応答。	・資料「富山市総合計画新世紀プラン」 ・前回の生徒のアイデア ・資料「Q&A」	・地域環境の現状と、今後の取り組みを知るために、専門家の話を聞いた。 ・もっと地域社会に目を向け、自分のできることから進んで実行していく大切さを実感するようにした。

(2) 授業評価

本領域における1時間目から10時間目の授業における1クラス40名の生徒の授業評価や感想から学習内容、教材、教具の効果について検討する。

① 授業のわかりやすさ(図1)

1時間目は教育実習生が担当し、2時間目以降は専任教師が行ったものである。1時間目はわかりやすさの評価がややひくいものの、2時間目以降は、毎時間ほぼ「わかりやすかった」という4段階に近い数値を示しており、生徒からみてもわかりやすい授業であったと評価されている。授業技法等が授業のわかりやすさに反映することが、同時に行ったアンケート感想欄からも読みとれた(後述、表5)。

② 発言の有無(図1)

1～5時間目の結果は、教師側が「発言」の定義を明示していなかったため、生徒がそれぞれに個々人の尺度で答え、発言していた生徒が「あまり発言しなかった」というように、教師の観察評価より過小評価になっていた。中でも、3時間目と5時間目は、教師からみて、グループ内での発言がなされていたにもかかわらず、教室全体での発言は「あまり発言をしなかった」と評価する生徒が多く、約2割の生徒はこの質問自体に回答をしていなかった。

10時間目の学習活動は、外部講師による話と質疑応答等であったが、1時間設定と短かったため、十分に発言をする時間が足りなかった。内容の多さから見ても、2時間続きの時間設定をすべきであったという反省点があった。

全体的に、毎時間、1時間で本時の目標を達成するためとはいえ、発言の機会が十分に取れていたとはいえない。いかに生徒の意見、考えを多く引き出すかが、今後の引き継ぎ課題である。

③ 行動の積極性(図1)

1～5時間目の結果は発言と同様に、教師側が「積極的行動」の定義を明示していなかったため、生徒の自己評価は、教師の観察評価より過小評価になっていた。6時間目以降は4段階に近い数値を示しており、生徒たちは自信を持って、積極的に授業に取り組んでいたと評価できたようである。教師から見ても、毎時間、生徒たちが食い入るような目で臨んでいた姿が印象的であった。

④ よかった教材(図2)

ほぼ毎時間6割以上の生徒が「ある」と答えている。全体を通してみると、特に生徒たちは「実験、体験」「グラフ、図、絵等」「VTR」のように、体験的、視覚的なものに、高い評価をしている。

4時間目の「ワークシート」⁵⁾(学習過程の4時限目参照)が約30%と高い評価を得ているが、他の時間で活用した教師自作の「ワークシート」はそれには及ばなかった。「実験」と組み合わせた場合でも、今回選択したワー

クシートは、高い評価を得ていることから、既製の教材から、教師が有効なものを見極めて使用することも重要であると改めて認識した。

「グラフ、図、絵等」は「ワークシート」との組み合わせでは高い評価を得ているが、「実験」との組み合わせではせつかくの「グラフ、図、絵等」も印象が薄れるのか、低い評価になっている。このことから、「実験」「グラフ、図、絵等」「ワークシート」の順に、よかったと答える傾向が認められる。

「VTR」では、6時間目の、今まで知らなかったり、目に見えなかったダニの実態を知らされたことが、印象的であったと思われる。9時間目のTV番組から録画抜粋したものについては、評価があまり高くなく、YTRの選択、編集も重要な教材作成となると考えられる。つまり、授業においては必ずしも生徒に人気のあるTV番組が有効とは限らず、内容に応じた説得力のある教材が期待されることがわかった。

⑤ 最も印象に残ったこと(図3)

上述の「教材」との関連はかなりあるものの、「知識等」が毎時間圧倒的に高い数値を示している。今まで気付かなかったことへの驚き、考えていなかったことを考えられた嬉しさ、知らなかったことを知った驚きと喜び等は、自分自身の高まりを感じることができると言える。

次いで「実験、体験」「VTR」「グラフ、図、絵等」、の体を動かしたり、視覚に訴えたりするものは印象に残っている。とくに3、4時間目の空気汚染や騒音の示範実験でも、提示の仕方、実験の仕方でもかなりの効果を上げることができると思われる。

「教師の話」も印象に残っているようで、4時間目は、実際にあった事件や教師の体験談を話ただけなのだが、質問を投げかけながら話をしていくという話の展開の仕方も功を奏したのかもしれない。10時間目は外部講師の専門家による話であるが、これも知らなかったことを知る喜びとともに明らかに効果が認められた。

「クイズ」も好評であった。ただ生徒に質問を投げかけるだけではなく、クイズ形式にして4択問題等にすると、全員の興味を引き、なんとか正解したいという意欲を持って参加しやすくなるので、授業展開のマンネリ化を避ける工夫や技法は大切であると実感できた。

9時間目で数値の高い「グラフ、図、絵等」は、生徒達自身が考えたアイデアを図や絵に表したものであり、後のアンケート感想欄からも、生徒達の意見や考えをシェアリングすることのおもしろさ、重要性を生徒自身が感じ取っていることが伺えた。

「教材でよかったものはあるか」と「最も印象に残ったこと」は関連が深く、教材の選択や開発が、生徒に多様な力を確実につけていくためには重要であると、教師も実感できた。

(3) 授業後の生徒の意識変化

① 今後やってみようと思ったこと(表4, 図4)

「ない(無回答を含む)」と答えた生徒の数が、時間を追う毎に減少していった。自分の問題として学習し、実践力がついたと判断できる。また、生活に返しやすいく内容であったとも捉えられる。

9時間目は、地域の施設等に関わるバリアフリーについての学習であったので、自分にはできないことはないと思えた生徒が多かったようである。現に、自分が考えるアイデアも机上の空論で終わるのだろうと思っていた生徒もいるようで、次へのつながりが感じられにくかった結果であろう。ただし、その後の新聞報道記事や市役所職員の方の話から、生徒達のアイデアに似たものがすでに考えられたり、研究中であるとか、開発されて試験運用中であることを知ることができると、生徒たちには驚きと喜びの表情がひろがった。

ハード面でのバリアフリーの印象が強く、心のバリアフリーに目が向いていない生徒もおり、誰もがすぐにもできることがあることに気付かせる手だてがまだ弱かったと反省され、今後の課題となった。

② 毎時間後の生徒の感想等より授業の流れを振り返る(表5)

授業内容にかかわる意欲の変化を見ると、徐々に実践しようという意欲が増していく様子がわかり、それとともに他者への思いやりの大切さにも気付きは始めていることが読みとれる。

授業の進め方にかかわることでは、考えることのおもしろさや、他から学ぶ大切さに気付いてきており、主体的な学習の深まりが伺える。

題材終了後の感想では、人とかかわり合いの大切さ、常によりよい暮らしを求めて考え、実行していくことの大切さを学びとっていることが伺え、生徒の感想の流れからみても、10時間の授業実践の成果が十分に認められる。

③ シニア体験後の意識の変化(図5)

生徒たちは、今まで以上にお年寄りの立場に立って、環境を見直し、ものを考えるようになったり、今まで何気なく見過ごしていたものに興味を持って考えを巡らせたりできるようになったことが伺える。

④ 体験学習をする前よりも日常生活で良くするようになったこと(図6, 図7)

図6に示すように、生徒達が以前からよくしていたことで最も多いのは、「地域で挨拶をする」「迷惑駐輪などをしない」で26%、その他「家の手伝い」「相手の気持ちを考える」が20%であった。あまりできていなかったことは、乳幼児や高齢者に関心を持つことや、生活の見直しで、ほとんどなされてこなかったと思われる。

体験学習をして、前よりもさらによくするようになったことは、「地域で挨拶をする」「相手の気持ちを考える」「家族に感謝」が約50%で、「困っている人の助け」「生

活の見直し」「お年寄りとの会話」は約40%と増加し、約75%の生徒が、体験学習の効果を認めている。

(4) 授業後の生活の変化(図8, 図9)

学習後実践したこや、していることをたずねた。6時間目の「室内の整備」まで進んだ後、ちょうど冬休みになり、生徒全員が学習後、何らかの実践を行っていた。中でも、2項目、3項目と実践している生徒もおり、学習後の関心の高さ、実践力の高さが伺える。このことで、生徒の発達段階や適時性を考慮に入れた年間計画の重要性も再確認できた。

実践項目は「換気」と「そうじ」が多く、「換気」についてはわが家だけでなく、教室でも効率よく行う姿がたびたび見られた。「そうじ」については、以前より掃除機をかける回数が多くなった、念入りにかけるようになったという回答が非常に多く、VTR「ダニの世界」がとて印象に残ったようだ。

「室内の安全」「地域の環境」の学習直後では、約2割の生徒が、早速わが家に危険防止の道具等を取り付けるなどして、家族に配慮した住まい方を実践しており、学習が生活に直結したことが伺えた。

心のバリアフリーを実践している生徒の具体例を見ると、「以前より家族との会話が aument した」「祖父母と優しい気持ちで会話できるようになった」という記述や、地域の環境に関心を示すようになって見方が変わったという記述が多くみられた。

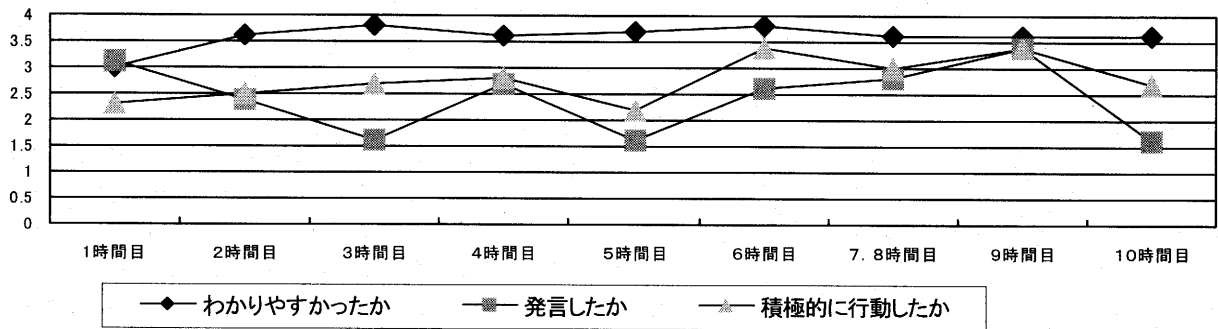
3. まとめ

一般的に生活経営領域や住生活領域については、実習もやりやすく、今一つ生徒の興味・関心を持たせにくい領域と思われるがちである。家庭科教師も不得手として、時間を最小限にとどめることも多いのが現状である。実際この領域では教材も少なかったり、また、生徒の関心・意欲が高めにくく、十分な学習が実施されにくいことも確かである。しかし、今回、教師自身も苦手感をはじめとした指導観の転換を図り、生徒にどうしてもつけたい力を意識しながら取り組んだ結果、大きな手応えがあったと感じている。これまでの指導要領の範囲内で教えることから一歩踏みだし、目の前にいる生徒の実態や発達段階を十分に考慮して、「住生活」と「生活経営」の領域の融合を図りながら、教材を吟味し、教師自身が毎時間生徒の反応を楽しみにしながら授業実践していく中で、確かな手応えを感じつつ、次のようなことがわかった。

教材については、予測通り、VTR等の視覚的に動きのあるものが効果的であった。また、それは数や時間は少なくとも効果的であることがわかった。

生徒に実地体験させることもかなり、心の耕しや、考えを促すために有効であることも実証された。

ワークシートは十分に吟味した質の高いものがかなり効果的であり、本時のねらいを達成するために、生徒自



(点数が高いほど肯定的)

図1 授業のわかりやすさ、発言、行動の積極性についての生徒の自己評価

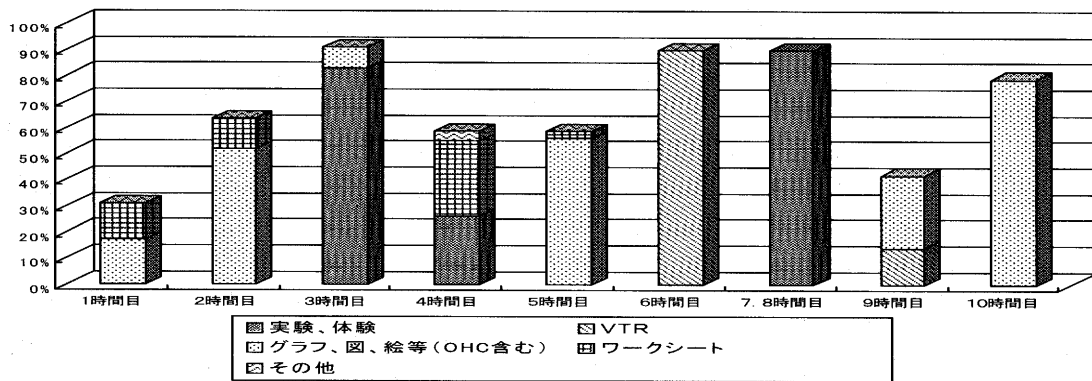


図2 よかったと思う教材

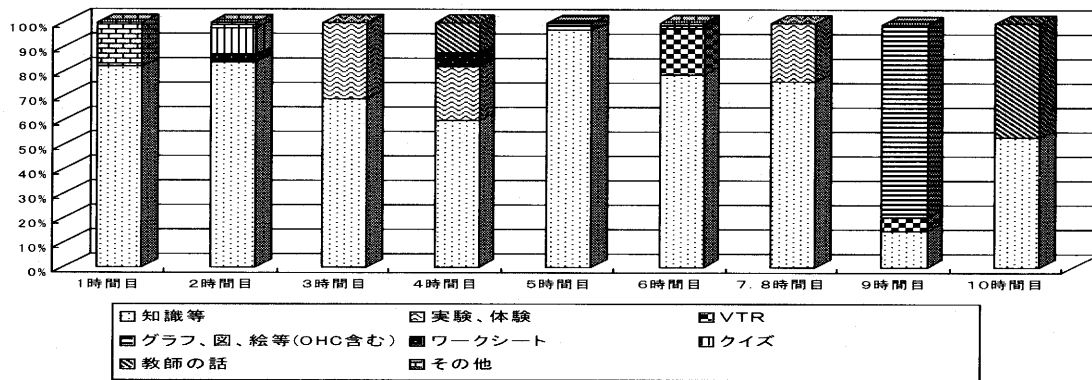


図3 授業で最も印象に残ったこと

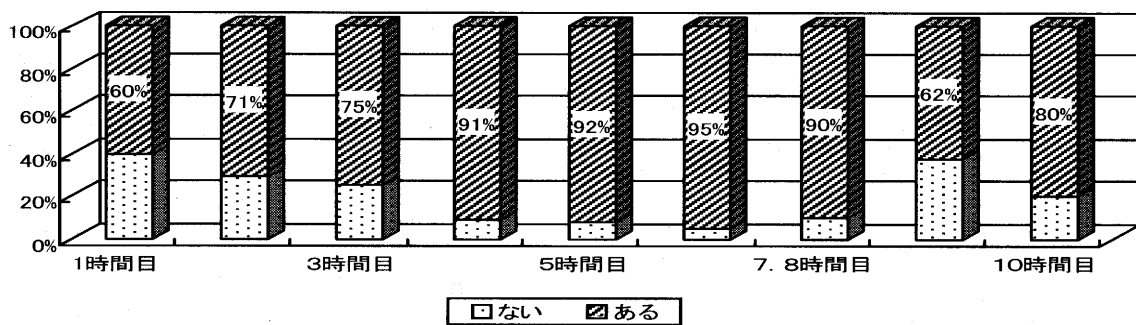


図4 今後実践してみようと思ったことの有無

表4 今後やってみようと思ったこと

	1 位	2 位	3 位	その他	「ない」以外の合計
1 時間目	ない 39.5%	早寝早起きをする 36.8%	家族との時間を大切にす る 11.8%	11.9%	60.5%
2 時間目	家族皆が快適になるよう 温度等を工夫する 49.4%	ない 28.6%	換気する 14.3%	7.7%	71.4%
3 時間目	効率よく換気する 54.5%	ない 27.7%	目的に応じて照明器具を 使い分ける 14.3%	6.5%	75.3%
4 時間目	音の出る物の下にマット やじゅうたんを敷く 26.8%	大きな音で近所に迷惑を かけないようにする 18.3%	夜はピアノの音を小さく したり、弾く時間帯を考 え直したりする 17.1%	37.8%	91.5%
5 時間目	季節や目的に応じてカー テン、敷物、小物等の色 を変える 59.0%	部屋の模様替えや家具の 配置換えをする 19.2%	ない 7.7%	14.1%	92.3%
6 時間目	そうじをする 35.3%	そうじ機をかける 30.3%	そうじと換気する 22.4%	11.8%	94.7%
7,8 時間目	危険防止グッズを取り入 れる 63.3%	整理・整頓をする 19.0%	ない 10.1%	7.6%	89.9%
9 時間目	ない 37.5%	お年寄り、障害者の手助 けをする 23.6%	道具等を開発する 15.3%	23.6%	62.5%
10 時間目	バリアフリー、ユニバー サルデザインを考える 38.7%	お年寄り、障害者との交 流、手助けをする 20.0%	ない 20.0%	21.3%	80.0%

(注) 自由記述による上位3項目を示した
「ない」には無答も含む

表5 毎時間後の生徒の感想より

<授業内容に関すること>

<授業の進め方に関すること>

1 時間目「家族・家庭の機能」

- ・本当に実行するのは難しい。
- ・睡眠、朝ご飯、家族、家庭の大切さが改めて分かった。
- ・自分の生活を振り返ることができてよかった。

- ・ワークシートがよかった。
- ・ちょっと授業が速かった。もっと自分の考えをまとめる時間がほしかった。

2 時間目「快適な生活空間の工夫—室内の空気調節—」

- ・家族のことも考えようと思った。
- ・快適な空間づくりを、自分の部屋でしてみたいと思った。
- ・どんな空間が住みやすいかを、今日の授業でじっくり考えられた。

- ・クイズ形式は、クラス全員が授業に参加できて、とてもよいと思う。また、多くの人の発言を聞くことで、いろんな考えがわかるので、それもよかった。

3 時間目「快適な生活空間の工夫—室内の空気調節、室内の整備—」

- ・自分の生活に関係があることだったから、授業をしていて楽しかった。今日やったことを、これからの日常生活で使っていきたい。
- ・今まで普通に過ごしていた環境も、工夫次第でかわるんだと思った。
- ・日常的で役に立つことがいっぱいあって、試したい。

- ・模型を使っての実験が、とてもわかりやすかった。

4 時間目「快適な生活空間の工夫—室内の整備—」

- ・今日はすごく考えることができてよかった。おもしろかった。
- ・みんなの意見を聞くと、家ではあまり非常識な行動をしていないなあと思った。音を出してもいい時間帯や、対策も結構ためになった。
- ・今日は騒音についてだったが、人は1人で生きているわけではないので、周りの人のことを考えなければならないと思った。

- ・いろんな教材が使われて、おもしろかったし、わかりやすかった。
- ・ワークシートがあったので考えやすく、まとめやすかった。

5 時間目「快適な生活空間に工夫—室内の整備—」

- ・色って大切なんだなとしみじみ思った。勉強になったので、家ではどんな工夫がしてあるのか調べてみようかなと思う。
- ・これから部屋の模様替えをする。自分の部屋には、いろいろなものが多い。
- ・すごくおもしろくて参考になったので、さっそくやってみよう。

- ・部屋の模様替えを考えて、絵をかくのが楽しかった。
- ・資料などがおもしろくて、わかりやすかった。

6 時間目「快適な生活空間の工夫—室内の整備—」

- ・そうじがこんなにも大事なことだとわかって、とてもよかった。
- ・前回の騒音防止のじゅうたん、今回の掃除の必要性がつかっているからおもしろいと思った。
- ・いることはわかっているけど「見えないからいいなあ」と思っていたダニだが、その繁殖しやすい環境やえさなどを知らず、あてはまるが多かったから、そうじはとても大切だと思った。

- ・ビデオや実際のものを見ると、わかりやすくていい。

7・8 時間目「快適な生活空間の工夫—室内の安全—」

- ・今までお年寄りなんてあんまり遅いのかと考えることがあったけど、それがわかった気がする。お年寄りに合わせてあげることが大切だと思う。
- ・自分の家は案外工夫がされていた。この授業で、「家のあれは、このためにあったのか」と気付くことができた。
- ・自分だけでなく、お年寄りや幼児などの目から見た考え方もたなきゃいけないなあ実感した。

- ・シニア体験をすることによって、身体の不自由さが実感できて、自分の家はどうかと考えさせられた。また、これから工夫次第で、できることもあることがわかった。
- ・みんなで意見を出し合うことで、とてもいい考えがたくさん出てきた。もっともっと知りたくなった。

9 時間目「地域の環境—環境への提言—」

- ・みんなで考えたアイデアが、本当にできればいいなと強く思う。
- ・いつも今日の授業のようなことを考えていけば、障害者の方への対応も変わるはずだ。
- ・身体に障害を持つ人への物の工夫が多かったけど、1番いいのは、人が気軽に手助けすることだと思う。

- ・授業がとてもおもしろくて、時間が早く過ぎていく気がする。
- ・クラスの人の考えがいろいろわかり、有意義な時間だった。

10 時間目「よりよい環境をめざして」

- ・バリアフリーは設備だけでなく、“心”も大切だ。やっているとからやっていきたい。
- ・私たちが考えたことが実際に行われていたり、研究されていたりしてびっくりした。でも、バリアフリーを進めるのは、とても努力が必要で大変なんだなと思った。
- ・気付かないところでこのようなプロジェクトが進行しているとは思わなかった。自分も市民としての自覚をもたねばならない。

- ・すごくためになった。やっぱり実際に活動している人の話はすごい。
- ・用意してきてもらった資料でも、今までわからないことがわかって、スッキリした。

題材終了一週間後の生徒の感想より

- ・家族みんなで助け合えば、楽しく、結構落ち着いて生活できると思う。
- ・快適に住むためには、家族だけでなく、周りの人など、人との関わり合いが大切だと思った。……また、自分のできることは何か考えている。
- ・祖父母のことも考えて生活するようになったと思う。
- ・1年生の総合的な学習で、いろいろ調べたときは、心なんて考えずに、どんなグッズがあるのかだけを調査していたが、今回はグッズより、そこらの人が声をかけて、手伝うことが大切だということがわかった。何だか深い授業で、いろいろと詳しく知ることができてよかった。
- ・今はデザイン系の仕事がしたいと思っていたので、普段街を歩いていて考えることが多くなった。そういうことを考えられる人になって、いろんな人に自分から声をかけられるようになりたいなあと思う。

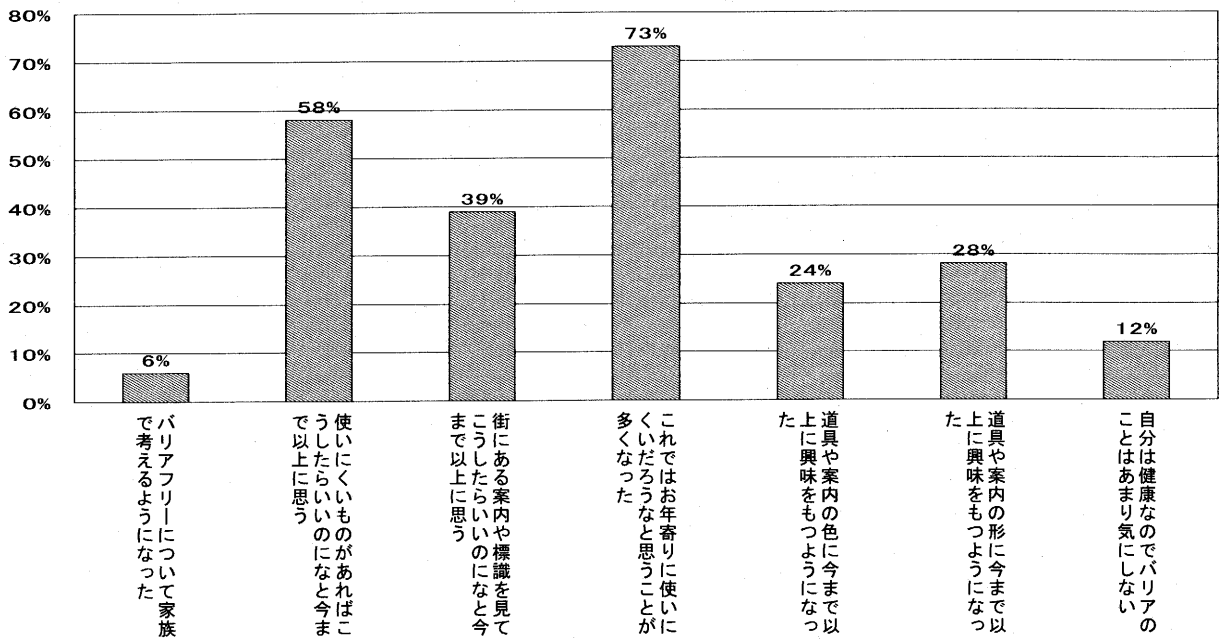


図5 シニア体験後の生徒の視点の変化

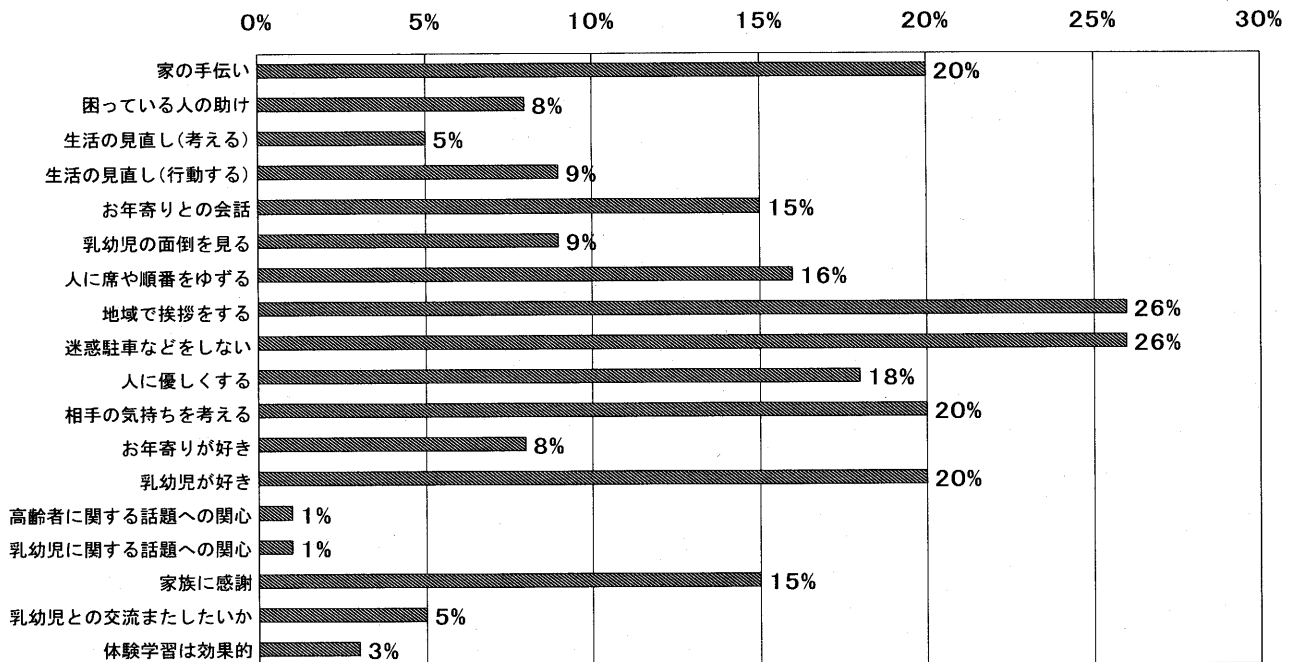


図6 以前から良くしていたこと

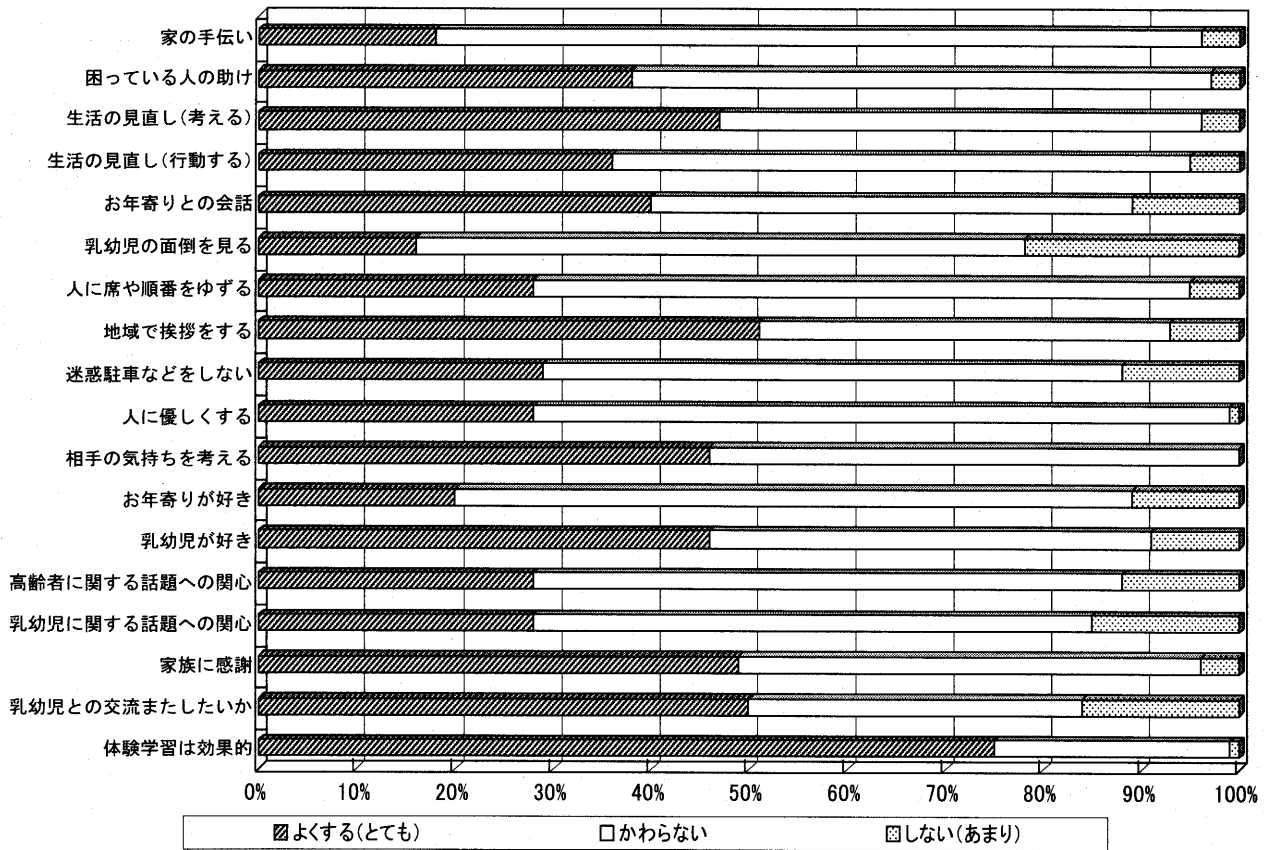


図7 体験学習後よくするようになったこと

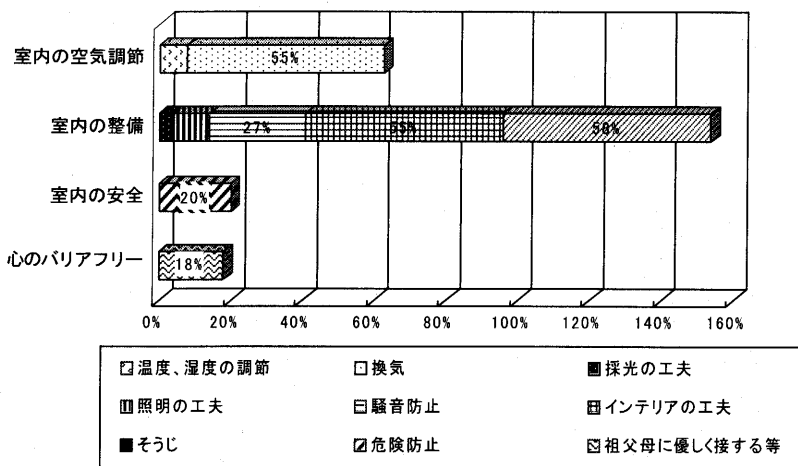


図8 学習後実践したこと, していること (複数回答)

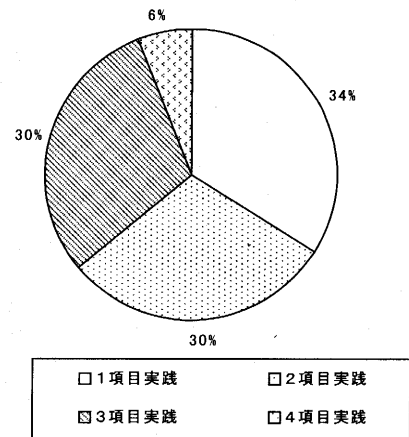


図9 生徒一人の実践項目数

身が自由な発想で考えを巡らせることができるものがよいと言える。

今回の学習内容は、身近なことではあるが、普段何気なく過ごしてきた生活事象についてのことであるので、意外に教師から伝える知識等が生徒の最も印象に残ったことと評価された。そしてさらに、学習が進むにつれて、自分で考えることも多くなり、学習内容における基礎や

基本の知識・技術・理解を深めた上で、生徒は自ら考えることの楽しさ、他者等から学ぶことの喜びを感じとれるようになった。

毎時間、生徒の気持ちになって、わかりやすく、楽しい授業を心がけることによって、日常生活における実践の意欲が高まることがわかった。

住まい方の学習についても生活経営領域との融合をは

かることによって、生徒たちは、ものだけでなく、他者（ひと）とのかかわり合いがあってこそ快適なくらしができることに気付いたことは、大きな成果であった。

評価については、今回は前述のように、選択肢と自由記述を組み合わせ短時間に回答できるものとしたが、生徒の自己評価からも、教師の指導の在り方が読みとれ、教師の観察評価と併せて活用することによって、次時への指導の仕方に生かせるものとなり、非常に効果的であった。

今回は、住まい方についての学習に重点を置いた授業であったが、そこに入る導入部分や題材の終末部分にさらに時間をかけると、生徒一人一人がよりいっそうの課題意識をもって取り組めたかもしれない。家庭科の授業時間削減の中にあっても、3学年間を視野に入れた各年間計画をたて、「生徒につけたい力」によって、焦点を絞り込んだ時間の取り方を考えることも必要であると思われる。

住生活や家庭経営領域という生きる基本とも言える領域の学習を簡単に流してしまうのではなく、しっかりと取り組み、生徒が人間として成長するために成果をあげることができればと考え、今回の報告を行ったが、今後もさらにカリキュラムや学習内容の検討を行い、有効な教材の開発と組み立てをめざしたい。

謝辞

ご多忙の中を、中学生の家庭科授業のために時間を割き、有効な資料を準備して話をしてくださいました、富山市企画管理部企画調整課主幹の粟島康夫さん、および関係者の方々に深く感謝いたします。

文献

- 1) 日本家庭科教育学会新カリキュラム研究委員会
(2001) 家庭科カリキュラムの研究－カリキュラム開発の視点と構想－
- 2) 吉川智子, 荒井紀子 (2000) 住環境づくりへの主体的意識を育てる高校家庭科の授業開発 (第2報) 授業の分析と評価, 日本教科教育学会誌, 第22巻, 第4号, 55-63
- 3) 永井敏美 (2002) 高校生の他世代交流の成果と課題－地域に根ざした体験学習をより効果的に行うために－, 家庭科教育, 家政教育社, 76巻9号, 44-49
- 4) 渡辺彩子, 荒井紀子編著, 神川康子, 他10名 (1999) 主体的に生活をつくる－人間が育つ家庭科－, 学術図書出版社
- 5) 牧野カツコ編著 (1999) 家庭科ワークブック②, 国土社, 116